

学校研究

1 研究主題

自分の言葉で、思いや考えを伝え合い、深め合うみずほっ子を目指して
～対話を通して、自己を見つめ直す授業づくり～

2 主題設定の理由

令和6年度は、対話を通して、問題解決能力の向上を図り、関わり合いながら自分の言葉で伝え合うみずほっ子を目指し、学校研究に取り組んだ。日々の授業の中で、児童が自己決定できる環境づくりに努め、対話が生まれるように研究を進めた。その結果、児童アンケートの回答結果から、理由や根拠を示しながら自分の言葉で伝え合おうとする意識の高まりが見られた。

しかし、研究授業の整理会等では、考えの交流は活発にされていても、対話を通して自分の考えを深めようとする児童の姿は、あまり見ることはできなかったという課題が挙げられた。つまり、課題解決の過程において、対話を通して得た情報を比較したり関連づけたりしながら、考えを深めていくということについては、十分に徹底できなかったということである。また、学力調査等の結果からも、本校児童の課題として、複数の資料を関連付ける思考力や、読み取ったことを必要な条件を落とさずに表現する力が弱い傾向が見られた。

そこで、今年度は、対話を通して自身の考えを再構築し、また、その考えの変容について振り返ることのできる児童の育成を目指し、上記の研究主題を設定するに至った。つけたい資質・能力を情報活用能力に設定し、羽咋市がデジタル環境における新しい学び方として掲げている「Hakuisism DIvE!」の考えに則しながら、その向上を図りたいと考えている。

3 目指す児童像

令和7年度の学校研究で目指す児童像を以下のように考えた。

- ・対話を通して、自分の思いや考えを再構築できる児童
- ・自分の思いや考えの変容を見つめ直せる児童

4 研究仮説

目指す児童像の実現に向け、以下の仮説を打ち立てた。

全ての教育活動において、デジタルの活用や対話を通して考えを深めたり、自分の考えの変容をふり返ったりする活動を設定するとともに、教師が深い学びに向かう姿を促したり、適切な手立てを通して意識づけを図ったりすることで、研究主題に掲げた「自分の言葉で、思いや考えを伝え合い、深め合う児童」が育つであろう。

5 具体的な取組

仮説を実証するに当たり、目指す児童像の実現に向けた取組を以下のように考えた。

🌀 基盤づくり…授業での対話の素地となる「話し方」「聞き方」を確実に定着させる。特別活動等においても、ふり返りの場面を設定し、自己の成長を見つめ直す機会とする。

対話	ふり返り
<ul style="list-style-type: none">・「発表名人」「深め合いワード」の掲示・帯タイムでのトークトレーニング	<ul style="list-style-type: none">・学校行事後の「ふり返り」掲示・自学ノートでの「ふり返り」の記入・道徳コーナー・キャリアパスポート

🌀 授業づくり…授業内では、「学び合う場面」「深める場面」「ふり返る場面」での教師の働きかけによって、児童が課題に対して考えを表現したり、自己の変容に気づいたりすることを促す。

対話	ふり返り
<ul style="list-style-type: none">・自己決定の環境づくり・対話タイム（目的/形態/相手）・多面的・多角的な思考を促す板書・深める発問	<ul style="list-style-type: none">・「ふり返りの視点」の共通理解・ふり返りシート

🌀 デジタル活用…より深まる他者との対話や自己内対話を生み出すために、授業場面、授業以外の場面に応じてデジタルを活用する。

授業場面	授業場面以外
<ul style="list-style-type: none">・学習者用デジタル教科書の活用・考えの集約・共有、可視化、アンケート・デジタルを生かした道徳授業	<ul style="list-style-type: none">・家庭での事前学習、復習・特別活動の様子の掲示（映像・画像等）・デジタルを生かした「親子 d e 道徳」

6 研究の検証方法

以下の通りに検証方法を設定する。

- ① N R T・学期末テスト・国/県/市学力テスト等の結果の分析
- ② 学習に関する児童アンケートの分析
- ③ 抽出児による対話の様子やふり返りの記述の変容

7 研究組織

部会名	取組内容	メンバー
研究推進	研究方針の提案 指導案の提案・検討	上杉・松本・室野
授業力向上	模擬授業&整理会運営 相互参観授業 研修支援	室野・品川・柳橋
環境整備	朝自習&ドリルタイム 生活チェック	市塚・平野・廣澤
集計・分析	学力調査の集計&分析	松本・各学担
検証	取組の検証 進捗状況の確認	上杉・池島

